

# 「熊本地震」から一年

## 地震への備え

あらためて考えてみよう、地震への備え！今、できること。

一年前の平成28年4月に「熊本地震」が起きました。地震により熊本県を中心に八千棟以上の住宅が全壊し、多くの尊い命が失われました。避難所などに避難した人は最大で18万人を超え、余震が続く中で不自由な日々を過ごしました。この一年、全国から駆けつけたボランティアや自治体などの支援もあって被災された方々は、自宅に戻ったり新たな住まいに入るなど、徐々に本来の生活を取り戻しつつあります。

「熊本地震」から一年。このような大地震が私たちの身近で起こるといふことを思い出し、地震から命を守るために今からできることを考えてみましょう。



加藤神社から見た熊本城

熊本城も、地震により大きな被害を受けました。建物や石垣などは、今も大きな被害の跡が残っています。

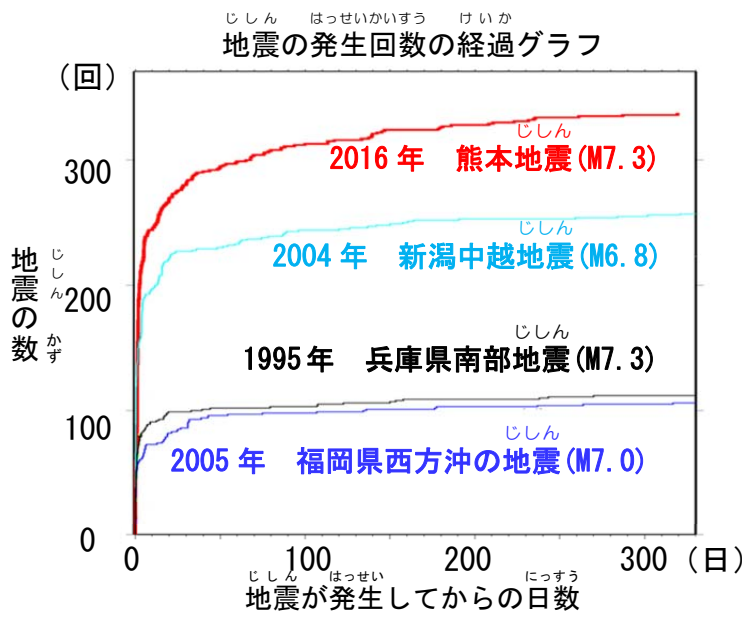
【平成29年3月撮影】

## 震度7が2回！人が感じるような地震が多い。

## 熊本地震の特徴

熊本地震では、最大震度7を観測する地震が2回（4月14日、16日）起きました。これは日本で震度の観測を始めてから初めてのことで、また右図のように地震の規模（マグニチュード）は平成7年に起きた「兵庫県南部地震」と同じですが、人が感じるような地震の回数は約3倍で、その他の地震と比較しても、最も多くなっています。

熊本地震の活動は、全体として弱まってきましたが、現在も続いています。



比較的大規模の大きな地震（マグニチュード（M）が3.5以上）の回数を足し合わせたものです。地震発生直後に回数が急激に増え、時間が経過するほど回数が少なくなっています。

## 地震への備え

- 陸域の浅い地震では、大きなゆれが突然やってきます。そのため普段の備えがとて大切で。
- 地震でどのようなことが起こるのかを想像し、自宅や学校など、普段の自分の行動範囲を考えた上で、危険な場所がないかを考えておきましょう。
- 地震への具体的な備えは、本棚やタンスなどの大きな家具が地震でたおれないように固定、水や食料の備蓄や避難場所の確認などがあります。家族と相談しながら備えを進めましょう。

## （先生方へ）防災ワークショップを活用しませんか

大雨や地震・津波災害から、身を守るために必要な知識や意識を育む、アクティブラーニング型の防災ワークショップを福岡管区気象台のホームページで公開しています。防災授業などで活用してみませんか。気象台からスタッフの派遣も可能です。



2017年	4月10日	月曜日
平成29年		
福岡管区気象台	〒810-0052	
防災調査課	福岡市中央区大濠 1-2-36	
電話	092-725-3614（記事） 092-725-3600（天気相談所）	
メール	<a href="mailto:fk-kanku@met.kishou.go.jp">fk-kanku@met.kishou.go.jp</a> （ご意見・ご要望はこちらまで）	

## 「お天気 Q&A」

Q：マグニチュードと震度のちがいは？

A：マグニチュードは地震そのものの大きさ。震度は地震による揺れの大きさを表します。マグニチュードと震度の関係は、太鼓をたたく強さと音の大きさの関係に似ています。太鼓のそばにいますと「ドンドン！」と大きな音で聞こえますが、遠くはなれてしまうと小さな音しか聞こえなくなります。



同じようにマグニチュードが大きくても地震が起きた場所から離れたところでは震度は小さくなります。

## 気象情報へのアクセス

熊本地震の関連情報は	
熊本地震 気象庁 検索	
今、発生した地震の情報は	
地震情報 検索	